

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八女高等学校

Table with 4 main columns: 自己評価 (School Operation Plan), 学校関係者評価 (Self-evaluation), 評価項目 (Evaluation Items), and 学校関係者評価 (School Stakeholder Evaluation). It includes detailed descriptions of school goals, specific strategies, and stakeholder feedback.

保健	生徒の心身の健康の保持増進	学校保健安全の行事や活動をととして、心身の健康に関係を持ち、正しい知識を学び、自ら行動できる能力の育成と実践力の向上を図る。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的にコロナやインフルエンザ等の感染が広がったが、その都度、予防対策の呼びかけを行うことができた。次年度も感染を最小限度で止められるように、指導・呼びかけを行っていく。 ・心と身体の教育を深め、お互いに議論させ、自分の考え方を高めることができるよう、関連の授業(保健・家庭科など)と連携をして、考えさせていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校でスクールカウンセラーを活用していることの周知を徹底して欲しい。 ○心の問題はもはや社会問題であり、これまでの取り組みではうまくいかないと思う。 ○不登校生徒に対して学校全体で対応している様子がよく分かった。 ○多目的トイレも完備され非常にいい環境である。 ○メンタル面での生徒の状況と学校側の対応を聞きたい。 ○新型コロナウイルス感染症への対応を教えて欲しい。
		生徒の健康状態を把握するとともに、感染症予防や感染拡大防止のための早期対策を図る。	B					
		担任からの相談や学年会等での事案について、課題や問題があれば、早急に保健課へ連携しての対応を検討する。また、教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」や「配慮を要する生徒」に関する情報を職員間で共有し、対応について協議を行い、その対策については、学校全体で組織的にあたる。	A					
		スクールカウンセリングや心の健康相談、訪問相談等を計画的に実施し、学校医やSC、SSW等の指導・助言を受けながら、関係職員や関係機関と連携し、生徒や保護者の支援に当たる。	A					
		健康診断や教育相談等の結果を受け、疾病の早期発見・早期対応に当たり、疾病を予防する。また、必要に応じて保護者及び関係専門機関と連携し、継続的な支援を行う。	A					
	学校安全及び環境衛生の整美	生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃に関しては、一人で複数個所の監督をお願いしているため、先生が不在でも生徒自ら進んで掃除に取り組むことができるよう、より具体的な指導を行っていく。 ・今年度同様、大掃除や、外掃掃除の重点期間など、掃除区域を変更していきたい。 ・美化に関しては、充実期間など事前に指導してきたが、より明確に提示して実施させていきたい。 		
		学校管理下での災害状況について全職員に提示し、災害防止に役立てる。	A					
		安全衛生点検や検査を行い、必要に応じ事務室と連携して改善に当たる。	A					
		学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生検査の実施報告を行い、環境衛生の整備に努める。	A					
		生徒の美化意識の主体的な美化活動の推進を目指す。	B					
		「美化充実期間」において、日常の清掃状況を評価し、清掃の徹底を図る。	A					
	委員会活動の活性化	生徒が活動できる場と環境をつくる。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健は、行事だけの活動ではなく、生徒がもっと主体的に考え・行動できる土台を提示していきたい。 ・保健会の募集などできる範囲で活動させていく。 		
		委員会活動をととして、個々の潜在能力を生かし、主体的に行動できる生徒育成を目指す。	B					
		生徒会組織の一員としての役割を考え、組織活動の必要性和重要性を体験できるようにサポートする。	B					
	キャリア教育	生徒の社会性・自己肯定感を高め、早期からの進路意識の高揚を図る。	生徒の進路意識を高めるために、「進路講演会」や「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。	A	A	B		
「総合的な探究の時間」はキャリア教育の視点、及び、大学進学・公務員就職での活用の視点を持ち、1年次に「進路探究」、2年次に「ちくごみらいプロジェクト」を取り入れ、主体的に自分の進路について考えさせる内容にする。			A					
生徒の進路希望を的確に把握するために、各学期1回の進路希望調査を行う。また、生徒のキャリア意識の形成を図るために、各学年と提携して「ポートフォリオ」、「キャリア・パスポート」を記入させる。			B					
課外・長期補習・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。		生徒の進路希望実現を図るために、課外授業・長期補習・土曜セミナーを効果的に実施する。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後課外(1,2年は週3日・3年は週5日実施)に移行して2年目である。次年度は新教育課程での入試となり、特に3年生は課外の内容について各教科での検討を行っていただき、効果的な内容になるよう実施していきたい。 		
公務員試験を受験する生徒の進路希望実現を図るために、2年生2学期期末考査後からの公務員課外や公務員専門学校と連携した公務員専門科目・面接対策を企画・実施する。	A							
情報	1人1台端末を授業や家庭学習に活用できるように、教員のスキルアップを図る。	校内外での活用事例を収集し、それを閲覧する環境や研修を企画する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Jamboardに替わるアプリや、新規導入されたスクリーン等、更なる利活用に向けた教員のスキルアップができるよう、ICT支援員の活用等をさらに促進する。 		
		教員とICT支援員とのパイプ役を担い、授業へのICT活用について相談しやすい環境をつくる。	A					
	校務支援システムや各種業務のICT化について、業務のスリム化に繋がると共に、誰でも扱えるようにする。	校務支援システムについては、教務・進路・保健等の各担当者が業務に取り組めるようなシステム設定やサポート体制を確立する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各種業務のICT化を進めると共に、単にICT化するだけでなく、教員・生徒がより利便性を感じられるような活用となるよう、ICT活用の見直しをする。 		
		Google ClassroomやFormsなどの活用については、各担当者が実務を担えるようなマニュアル作成等のサポート体制を充実させる。	A					
	スタディサプリ活用の更なる充実を図る。	1人1台端末を使ったスタディサプリの利用を通して、更なる活用を推進する。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生を対象とした1人1台端末での使用方法や、3年生を対象とした入試対策の情報、それ以外の各学年・各教科からの情報発信を、生徒に周知することにより、スタディサプリの活用を促進する。 		
		個別最適化された学びの実現に繋げるため、習熟度に応じた講座の紹介等の工夫を通して、スタディサプリの活用を促進する。	B					
研修	教員のキャリアとニーズに応じた研修の充実を図る。	「Find! アクティブラーナー」を活用し、職員一人一人のキャリアやニーズに応じて研修ができるような環境を整える。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「Find! アクティブラーナー」の活用については、今後も積極的に活用していただくように先生方へ働きかけていく。また、職員研修においても、内容を考え、有意義な時間となるように努める。 		
		「Find! アクティブラーナー」の視聴による個人研修の成果を授業改善シートに記入し、学校全体で共有する場を11月に実施する職員研修に設け、組織的な授業改善を図る。	A					
	年間を通じたマネジメントサイクルを取り入れることにより、組織的な授業改善を推進する。	学校独自の授業改善シートを活用することにより、マネジメントサイクルに基づいた授業改善を推進する。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートや教科会議等を通して、先生方によりよい授業について考察していただいた。自身の担当する教科科目と異なる授業を参観する先生方も見られ、改善に向けた意識も高い。次年度も継続して取り組んでいきたい。 		
		5月と10月にスタディサプリを活用して授業アンケートを実施し、それぞれ、取り組み指標及び検証指標の作成、成果と課題分析のための情報収集の支援を行う。	B					
		6月と10月に授業研究推進期間を設け、研究授業や授業の相互参観を推進し、実践・参観・協議を通して、授業改善を図れるよう支援する。	B					
			B					

第1学年経営	八女高生としての基本的な生活習慣を確立させ、人間力の基盤を育成する。	基本的な生活習慣を確立させ安易な遅刻・欠席をせず、全教育活動を通して粘り強く努力が出来る、心身ともに逞しい生徒の育成を目指す。(出席皆勤率70%以上を目指す。)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が、基本的な生活習慣を確立させることができたため、安易な遅刻・欠席をせず、日々の学習や部活動に努力することができた。挨拶や言葉遣いも場に応じた振る舞いができているが、心のこもった挨拶を今以上に自ら進んでできるよう継続して指導していきたい。 ルールやマナーについては守られていない場面が見受けられるため、順守することの大切さを伝え、豊かな心を育てよう指導していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年は、中途退学者もほとんどなく、八女高校に適応していると感じる。 ○基本的な生活習慣がしっかり身についている。
		日々の生徒の様相観察や教員間の情報共有を土台に共通理解を図り、生徒の特性を見極め全職員で一貫した指導を行っていく。	A				
		校外外を問わず、八女高生として相応しい服装・頭髪や立ち振る舞い、心のこもった挨拶や場に適切な言葉遣いなどができるよう、日々の教育活動の中で、時間や期限、ルール・マナーを順守することの大切さを伝え実践させることで、社会から信頼される人間の育成を目指す。	B				
		部活動加入を奨励し、集団内での人間関係を構築する力やコミュニケーション力などを養う。	A				
	進路実現のために意識を向上させ、基礎学力の定着を図る。	学習面でも生活面でも高校生活に適応できるよう、全教育活動を通じてガイダンス機能の充実を図り、将来の在り方・生き方を考える態度や主体的に意思決定・行動選択ができる能力を育む。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を定着させる手立てとして、学年全体で毎日生活の記録をつけ、生徒自身が日々の学習への取り組み方、時間の使い方、スマホとの付き合い方などについて振り返る時間を設けている。PDCAサイクルのもと、試行錯誤を繰り返し、自分の学習スタイルを確立できている生徒もいるが、全員が学習習慣が定着しているとは言い難い。授業で学問本来の面白さを伝えたり、将来の在り方・生き方を考えさせたりしながら、予習・授業・復習のサイクルが確立できるよう継続して指導していきたい。 		
		特に国語・数学・英語の予習・復習を徹底し定着させることで、自ら学ぶ姿勢を養い、家庭学習時間の目標を平日150分、休日300分とする。最終的には平均180分以上を目指す。	B				
		進研模試の国数英総合成績の全国偏差値54以上(国公立大合格の目安)に100名以上を目指す。また、特進クラスについては、全国偏差値62以上を目標とする。	B				
		積極的に校外外の活動に取り組みさせることで、生徒の強みを引き出し、伸長を図る。また、3年後の学校推薦型・総合型選抜入試を見据えて、一人ひとりの生徒に見合った受験方法を、3年間を通して全職員で模索していく。	B				
	学校生活を通して自他の良さを気付かせ、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	「案ではないけど楽しい学校」の実現および、高一クライシスを防ぎ不登校を生まないために、適宜学年行事を企画し、年間を通して生徒相互のリレーションシップの向上を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもった学年行事の取り組みや日頃から積極的な生徒指導に努めたことなどにより、高一クライシスを防ぐことができた。学校行事や校外活動にも積極的に参加し、上級生の背中を見て必死についていく姿に成長を感じた。今後は、学校行事等を作り上げていく学年や学校の核となる生徒を育てていく。そして、学年全体の自主性を育てていきたい。 		
		生徒の変化に早期に気付くことが出来るよう、全職員で日頃から積極的な生徒指導に努め、家庭との信頼関係を土台に種々の問題の早期解決に努める。	A				
学校行事やボランティア活動などに積極的に参加させるとともに、外部機関と連携し講演や活動などの様々な体験を通して、自他の良さに気付かせ、生徒一人ひとりの強みを引き出し、伸ばすことができるようにする。		B					
第2学年経営	集団生活の中で主体性・社会性・協調性を持つ、自律的に行動できる生徒を育成する。	円滑な人間関係を形成するため、心のこもった挨拶や場に適切な言葉遣いができるよう指導する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 大運動会、修学旅行等の学校行事にて積極的に関わろうとする生徒が多かった。その中で集団での役割を果たすことはもちろん、日々の学校生活になげようとする生徒が増えた。明るく率先して挨拶をする生徒や朝早く来た生徒が自ら換気をするなど主体的な姿勢も見られるようになった。 自己管理(時間・体調の管理)を意識している生徒が増えてきているように感じるが、朝の登校時間や出欠状況、掃除に対するの姿勢に改善の余地がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○中堅の学年として、八女高校を引っ張っていった。 ○様々な学校行事や学年行事において、大きく成長しているように感じる。 ○素直でエネルギーにあふれた生徒たちが多く、校外外の活動に積極的に参加している。
		部活動や学校内の集団内でのリーダーの経験をさせ、人間関係構築力やコミュニケーション力などを養い、人前で自己表現する機会を設定する。	B				
		生活のリズムを確立させ健康管理への意識を高めさせるとともに、自分で感情をコントロールする力を身につけさせることで、出席皆勤率70%以上を目指す。	B				
		学校行事の運営や修学旅行をはじめとする校外学習などを通して、時間や期限、公共の場のルール・マナーを順守することの大切さを伝え実践させる。	A				
		当たり前にある日常のありがたさに感謝し、校門一礼や学習環境を整えるための清掃活動を積極的に取り組むよう指導する。	B				
		相応しい服装・頭髪とは何か考えさせ、共通認識のもと全員で日常的に一貫した指導を行っていく。	B				
	高い志を持った進路目標を掲げ、前向きな態度を取り、進路実現に必要な学力が身についた生徒を育成する。	習熟別クラス編成のメリットを活かし、生徒1人1人が個性や能力を発揮できる個別最適な学びを実現し、上位層と中下位層の双方の学力を伸ばすことができるような指導内容や指導方法の工夫改善を常に取り組む。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の活動では、外部と連携しながら課題解決に取り組む班が多く、見出した課題に対して、解決するための行動力を向上させることができた。 進研模試において、偏差値54以上の生徒は年間を通して増加傾向にあった。自身の進路について、真剣に考える生徒が増えたが、家庭学習時間については過去と比較するとまだ少ない。進路実現に向けては、早めから準備が必要なことを意識させ、主体的に学習に臨む生徒を増やしたい。 		
		「総合的な探究の時間」をはじめとするあらゆる授業の探究活動を通して、多様な人々と協働して学ぶ態度が取れる、課題を見いだし解決する力を持った生徒を育成する。	A				
		学ぶ楽しさ、学ぶ意義を感じることで自ら学ぶ姿勢を形成させ、家庭学習時間の目標を平日150分、休日300分とする。	C				
		進研模試の国数英総合成績の全国偏差値54以上(国公立大合格の目安)に100名以上を目指す。また、習熟クラスについては、全国偏差値62以上を目標とする。	B				
学校生活を通して自他の良さを気付かせ、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	学年通信やHR、学年集会等において、新課程による学習や進路に関する情報を連絡し、生徒や保護者に最新情報を周知する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事において、リーダーに対し先の見通しを立てて準備させ、行事終了後に振り返りを行うことで次の行事にリーダーが生かすことができていた。また、生徒・教師、教師・教師、保護者・教師間で細目に連絡を取り合い、生徒理解に努めることができた。 学年通信等で生徒の活躍を紹介し自己肯定感を高めさせたい。 			
	成績不振者に対して正副担任と教科担当者の連携のもと、その原因を早期に把握し、十分な指導を行う。	B					
	学校行事やイベントに積極的に参加させ、行動力や的確な状況判断力を養い、今後リーダーシップを取ることができる生徒を育成する。	A					
	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。	A					
	学年集会で先生方からの講話や外部講師を招いた講演会を行い、広い視野を持った生徒を育成する。	A	B				
	定期的に学年通信を発行し、様々な生徒の日常生活や活躍を示すことで、日々の自らの行動に自信を持たせる。	B					

第3学年経営	志を高く持たせ、進路実現に主体的に粘り強く取り組む力と学力の向上を図る。	HR・学年集会・個人面談で大学入試の情報を的確に伝え、自分の将来について考えさせ、進路目標を明確にすることで、高い志を持たせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて課外や土曜セミナーに最後まできちんと取り組むことができたが、与えられたもの以外で何が必要かを自分で考えて学習に取り組む力をもっと身につけさせる。 ・習熟クラス内でも学力差が大きく、より一層個別最適化された指導を行う。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜受験を考えている生徒には、早めに必要な準備に取り掛からせる。学校推薦型選抜は評定基準があるため、1年次より学習習慣の確立および基礎事項の定着を徹底させていく。 ・公務員については、外部指導も積極的に活用させ、刺激を与えていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○最高学年としてこの1年間よく努力した生徒が多いように思う。 ○明確な進路に向けてほとんどの生徒が必死に勉強している姿が印象に残った。
		国公立大学合格70名以上、公務員コース85%以上の合格を目標とする。(難関国立大学10名以上、国公立大学学校推薦型・総合型選抜入試10名以上)	B				
		進研模試の偏差値については総合成績で54以上に70名以上、習熟クラスについては、総合成績で平均偏差値58以上を目標とする。	C				
		思考力・判断力・表現力等を養成するため、難関大学受験希望者に対して添削・課題などの指導を行ったり、レベル別に応じた課題や復習の提示を行ったりするなど指導内容・指導方法の工夫を図る。	A				
		習熟度別クラス編成の良さを活かし、上位と下位の双方の学力を伸ばす授業を行う。	B				
		課外や土曜セミナー等を活用し、生徒のレベルに応じた指導の充実を図る。	A				
	自律自治の精神を養い、受験生としての生活習慣と成人としてのTPOに応じた言動を確立させる。	手帳やメモ帳を使い自己管理能力をさらに向上させ、受験生としての生活リズムを確立させ、出席皆勤率70%以上を目標とする。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・7限授業や課外のため面談時間が確保しにくい状況であるが、進路希望や受験方式等については面談を密に行って生徒の希望を確認するとともに、受験前のメンタル面でのサポートを行う。 ・習熟クラスの欠席が多かった。欠席が多い生徒については家庭との連携を取りカウンセリングなども行ってきたが、すぐに状況が改善されることも少ないので、どのように指導していくかを考える。 ・進路決定者への生活面や学習面の指導が十分でなかった。HR等の時間を使って、進路が早く決まったからこそ卒業までに何をすべきかを考え、行動に移すように働きかける。 		
		自ら学習する姿勢を育成し、進路実現を意識した計画的な学習の取組を行わせる。早期学習や居残り学習などを推奨し、平日200分以上、休日400分以上の家庭学習時間を確保させる。	B				
		5分前行動の習慣を定着させ、物事に余裕を持って取り組ませるとともに、想像力を働かせ、心が通う場に応じた挨拶や適切な言動をとることができるように指導を継続する。	B				
		学校内外問わず、時間や期限、規則といったルールやマナーを守れない生徒には、社会性獲得のため、「悪いことは悪い」と毅然とした態度で共通認識のものの一貫した指導を行う。また、目標を持ち、その実現のために自分の欲求や衝動を適切にコントロールし、信念をもって粘り強く行動することの必要性を説いていく。	B				
		個人面談を充実させ、正副担任と教科担当者、保健室や保護者との連携のもと、その原因を早期に把握し、学年全体で情報を共有し、個に応じた適切な指導を行う。	A				
	全ての事に感謝する心を持ち、社会にとって有為な人材となる他喜力溢れる生徒を育成する。	八女高の最高学年であることを自覚させ、学校行事・部活動・委員会活動・係業務に責任を持って主体的に取り組ませ、充実感・達成感を持たせるとともに、協調性や協働性を育み、人間関係構築力やコミュニケーション力、リーダーシップの向上を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大運動会では、各リーダーを中心として学年全体が団結して取り組むことができた。何かに挑戦させて自己肯定感を高め、自分に自信を持たせていく。 ・清掃活動にはよく取り組んだ。優しい生徒が多いが、主体性がない生徒も多い。自分で考えて判断したり、自分の意見を他の人に伝えたりする機会を、様々な場面で設定する。 		
		二者面談、学年集会やHR、各クラスでのSHRなどを通し、自分に関わる全ての人や環境に感謝し、他人を思いやる易しい心の必要性を説く。	B				
		清掃活動を通して、学習環境を整備し落ち着いた学校生活を送らせるとともに、奉仕の心や学び舎に対する感謝の気持ちを育む。	A				
		外部講師や多くの先生方からの講話を通して、相手の意図を理解しようとする「傾聴力」「想像力」を養い、多種多様な価値観や人間性を認めていく優しさや心のしなやかさを養う場面を設定する。	B				
事務	電話対応・来客接遇の向上を図る。	電話対応や来客対応において、相手の立場に立った丁寧な対応を心掛け、接遇の向上に努める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の来訪者があった際に、待たせることがあったが、適切に対応できている。引き続き丁寧な対応を心掛けたい。 ・定期巡回をとおして、校内の安全点検等に努めた。今後は、職員全員が安全意識を持つよう呼びかけていきたい。 ・空調の適切な使用について、周知が十分にできていない面があった。引き続き、適切な使用を呼びかけていきたい。 	
	施設・設備の適切な維持管理を行う。	定期的な校内巡視を行い修繕等必要な箇所等を把握するとともに、必要に応じて予算要求を行い適切な施設の維持管理に努める。	A	A			
	効果的な予算執行を行う。	職員に対して節電、用紙の節約等を呼び掛けることで経費の節減を図り、教育活動充実のための効果的な予算執行に努める。	B	B			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・次年度からは新制服の導入や海外修学旅行の実施など、生徒の意見をとりいれつつ、時代の流れに沿った新しい八女高校を創造していかなければならない。
- ・教員間で連絡を密にしなが、コミュニケーションを十分にとりつつ機能的な教育活動の運用をしていかなければならない。
- ・県立高校の魅力や特色を中学生にPRするとともに、多様な高校入試制度の趣旨を十分に踏まえつつ、志願倍率の向上を目指さなければならない。
- ・職員間で生徒の情報を共有し、外部の専門家と連携しながら中途退学者を減らしていく必要がある。
- ・生徒、保護者、地域のニーズは難関大学への合格である。この達成のためにキャリア教育部を中心として全職員で共通認識をもってあたらなければならない。

評価項目以外のものに関する意見

- 生徒に規範意識を身に付けさせて欲しい。
- 若い先生方の育成にも力をいれて欲しい。
- 様々なものが急激に変化していく社会において、八女高校が長い伝統の中で創り上げた「不易」の部分は、これからも大切にして欲しい。